
黒いシト

シ者 カヲル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

黒いシト

【Nコード】

N1577Z

【作者名】

シ者 カヲル

【あらすじ】

平均的な体型、平均以下の運氣。平凡な人生を送っていた青年『黒石透』は、駅の歩道橋で何者かによって殺害されてしまう。そして彼は、『死後の世界』の真実に触れてゆく。そして天敵、『霊媒師』との壮絶な戦いが始まろうとしていた……。

『シ』、あるのみ

「なあにやってんだ馬鹿者！！この休日に一体何をしていたのかね！こんな企画書で通るとでも思っているのか！！」

バシィ！と勢い良くデスクに叩きつけられる企画書。

ここはとある製品会社、の製品開発部だ。

最近の不景気のせいで、元々20人いたのだがここ2ヶ月で11人にまで減っていた。

すなわちリストラ。正式名称は「リストラクチュアリング Restructuring」。「再構築」という意味なのだが、雇われている側からしていい意味で捉えることは不可能である。

そこで。この11人という田舎サッカー部のような人数で形成されている開発部に、またもうひとり、消えようとしている口ウソク

が一本あった。

「す．．．すみません．．．。久しぶりの休日だったんで．．舞
い上がっちゃって．．」

「．．．．．はア．．。いつもいつも失敗の度に言い訳ばかり。
なんで君はこうなのかね。初心に戻ってみるか？」

そついうと、全身脂ぎった肥満体型のボテボテ部長は、自分の首
元を親指で掻つ切る仕草をする。

「そ．．．そんな！酷いですよそんなの」

と、必死に口論する青年。火が消えかけたロウソクだ。

「これからは絶対気を付けますから！だから今回だけはお許し．．
」

「もういい」

部長は、遮るように青年に言い放った。

「明日から、いい休日を過ごすように」

くるりと回転椅子を反転させ、ひらひらと手を降る部長。

キられた瞬間だった。

*

（ンだよチクショウ。キモツち悪い体しやがって。クソが。だから一生童貞なんだよゴミクス体型オヤジ）

と、いくら思っても言葉には絶対出せない臆病青年、黒石透^{くろいし とおる}。

彼は髪形、体型はまあまあ。平凡な成績で中学・高校・大学を卒業し、恋にも恵まれず、世界中の人間を全て足して2で割ったような男だ。

そして、彼はついさっき就職して半年程の会社をクビになったところだった。

（また就活とか嫌だわ……。どんだけ割り切ってあの会社入れられたんだろう……。ホント不景気死ね！）

ゴチャゴチャと頭の中で喚きながらトボトボ駅へ向かう。

（これだと母さんに合わせる顔がねえや……。帰りたくねえなあ……。）

『一番線に電車が通ります。黄色線の内側より下がって……。』

□

聞きなれたアナウンスが聞こえた。

でも、いつもより駅のアナウンスが遠く響くように聞こえる。

（なんだ……。この感じ……。いつもはもっとしっかり立っていられるのに。今日は無駄にフラフラする）

会社をクビになったことがそれだけショックだったのか、と透は思う。

右耳に、電車の走行音が響きわたる。

ふと足元を見ると、自分は黄色い線の外側にいた。

「ちょ！うわぁ！」

あたふたと尻餅を着いた瞬間、目の前に電車が猛スピードで通り過ぎていった。

「・・・ハア・・・ハア・・・。一体なんだってんだよ・・・」

ざわざわと周りの人達が透の様子を見つめていた。

尻餅をついたまま、彼はポリポリと頭を掻く。

ハッと、意識が覚めるといつのまにか自分は、2つ目の駅にある大きな歩道橋のど真ん中で突っ立っていた。

いつもならここから家に徒歩で直行なのだが、何故か今日は家に帰れる気がしない。

「つたく・・・頭痛え・・・。早く家に帰っちまおう」

頭を押さえながら、ふと前に目をやる。

行き交う無数の人間達。飛び交う様々な音。

そんなものを全て無視して、それはこちらに近づいてきた。

全身真っ黒の服で纏い、大きすぎるフードをかぶった男。

手を、つつこんでいたポケットから出すと、少し小走りになって近づいてきた。

そして。

ドン、と。相手の右肩と透の右肩がぶつかる。

（ンだよ・・・いってえなあ・・・）

振り返ると、その男はもういなかった。

疑問が頭を過ぎる前に、彼は異変を感じる。

ポタ・・ポタ・・と、なにかが滴る音がするのだ。雑音まみれの
この場にも負けずに。

腹部に目をやると、自分の腹から何か取手のようなものが生えて

いた。

(ナ・・・イ・・・フ・・・?)

腹を押さえると、グチュリと果実を潰すような音が鳴る。

同時、ドクドクと赤い液体が自分の体を伝って地面に溜まっている。

(ひ・・・ぐう・・・)

バタリとその場で倒れ込む透。

(たす・・・け・・・てくれ・・・だ・・・れ・・・
か・・・の・・・)
た・・・の・・・)

その日、黒石透は死んだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1577z/>

黒いシト

2011年12月5日19時00分発行